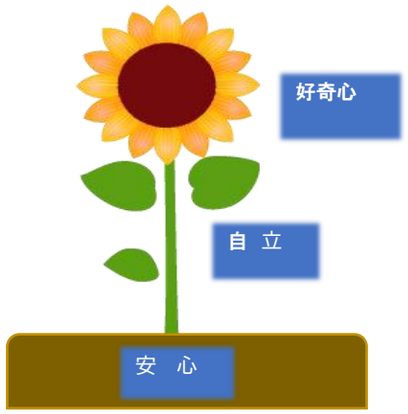
2021年度　港南台保育園　自己評価

今年度の４つの重点目標にどう取り組んだのか振り返ります

めざす育児行為の実践

着替えをする時、食事の時…どのような言葉かけでどのように援助をしたら子どもは気持ちいいのか、生活の自立に向かっていけるのか…よりよい育児行為（生活の援助）について職員皆で考え、話し合い、実践しました。
適切な援助で子どもたちが安心して自信を育てていけるよう、これからも見直しを重ねていきます。

安心の土台の上に
生活が自立に向かい
好奇心の花が咲く保育をしよう！



子ども主体の遊びの充実

目の前の子どもの姿から「どんな気持ちで遊んでいるんだろう」「どういう願いがあるんだろう」と想像し、遊びの環境について考える研修を半年間重ねました。クラスを越えて「こういう見方もあるのでは」「こんなアイデアもあるよ」と意見を出し合い、指導計画や玩具づくりなどの実践に少しずつつなげていきました。
子どもたちが主体的に遊び学ぶ保育環境を、これからも追求してきます。

積極的な保護者支援

昨年度行った保護者アンケートから、お家での過ごし方や保護者同士のコミュニケーション不足に不安を感じている方が多いことがわかりました。
そこで園だよりに子育てのちょっとしたヒントになるようなコラムを毎月載せました。（わらべうた、人気の絵本、給食メニュー、公園紹介など）また、乳児クラスの「ふれあい遊びの会」で保育園の遊びの紹介をしました。
1回目の保護者懇談会では少人数グループで懇談の時間を設けました。（2回目を同様に行えなかったことが残念です）
地域の保護者向けには園庭開放を再開し、数は少なかったですが利用がありました。
感染対策のためできることが限られる難しさはあっても、新しい方法を模索していきたいと思います。

クラスやキャリアを越えた職員の協働

会議を少人数にしメモをとらないルールで行うことで、意見を活発に交わせるようになりました。また、年代別やクラス混合など組み合わせも工夫し、全職員がお互いの理解を深められるようにしました。
ICTを利用した情報共有も始めました。
ただ黙食や密の回避などのため、なにげない会話が減ってコミュニケーション不足を感じている職員も多くいます。
長引くコロナ禍で、課題はやはり
「コミュニケーション」
互いに理解し合い、助け合える職員
集団作りに今後も取り組んでいきます。